

季刊誌「CORI」

株式会社 冠婚葬祭総合研究所 発行

発行日

Vol. 7
(2017年 9月)

内容

「地域に根ざす互助会」に
株式会社 117 の取材記事が掲載されました。



117のロゴが入った浴衣を着て「ひめじお城まつり」に参加する社員たち。

右ノ「兵庫県東播磨地区・東播磨通人バレーボール大会」の様子。



1978年より続く交通安全運動。各警察署交通安全課と交通安全協会の指導のもと、講習会を開き、毎年宣誓式を行っている。



1986年から毎年実施している献血活動は、79回を迎えた。社員だけでなく地域の方々も含め毎回400名ほど参加し、交流の場にもなっている。



右ノ「ヴィクトリーナ姫路」マスコットキャラクター。

©2016 Himeji Victoria Co., LTD.



お客様に接する機会を増やし、
長い関係づくりを目指して



株式会社 117
代表取締役社長
山下 裕史氏

兵庫県姫路市を中心に冠婚葬祭・介護事業を展開する株式会社 117。
地域貢献を通して、お客様と交流するイベントを社員一丸となって企画し、
ご本人や、その家族の人生の節目をサポートしている。

魅力あるイベント企画で 信頼をつくる機会を

兵庫県姫路市に本社を置く株式会社 117(いいな)の創業は1966年。姫路市内を中心に7カ所の結婚式場、45カ所のセレモニーホール、25カ所の介護事業所を展開し、人生の大切な節目での「安心」を届ける頼れるサポーターとして、地域に親しまれている。

「私たちの仕事は何かと一言でいうならば、『つなぐ仕事』だと考えています。結婚式や葬式、介護は、ご家族にとって大きな転機。日常の導きを感じ、過去に想いを馳せ、明日につながる希望を見出す。家族と家族、過去と未来をつなぐ役割と責任を引き受けられることに、社員は誇りを持っています」と山下裕史代

表取締役社長は言う。

同社が長年力を入れているのが、地域への社会貢献活動だ。その活動の内容は、80年代から続く献血活動や交通安全宣誓式、社内募金活動、地域イベントへの参加から、オリジナル企画イベントの開催まで幅広い。特に会員を対象に毎月のように開催されているイベントは、季節を楽しみ、バースターやゴルフの大会など、バリエーション豊か。それらは一見、関連のない活動のようで、実は根幹に流れる思いはすべて同じ。なの

「私たちが結婚式、ご葬儀という儀式施行の場面では実際にお客様のお役に立てる直接の機会が決して多くはなく、お客様にとっては人からずいぶん先になる場合もあります。も

っと日頃から、お客様と関係性を築ける場づくりができないかと、社内でアイデアを出し合い、このような活動が自然と増えていったのです。

「何かあったら呼んでください」の姿勢では、お客様にとって身近な存在にはならない。いざという時に頼っていただける存在にならう。

そんなビジョンを持ってコミュニケーションの見直しを図ったのが、従来の大和殿大和互助センターから、117に社名変更した93年の頃。当初は「会員様のお宅を、一軒一軒訪問しよう」という案もあったが、それでは数に限りがあり、訪問が喜ばれるとは限らない。「魅力あるイベントづくりをして、お客様の方から来ていただく」と方針を定めたという。

なかでも、地域に親しまれる活動の一つが、毎年夏に開催される兵庫県東播磨地区・東播磨通人バレーボール大会の運営サポートだ。「バレーボールを楽しみたい」という選手の声に応える形で、大会の協賛を1997年から20年間続けてきた。ユニークなのは、その支援のスタイル。「優勝チームへの賞品として、普通は自社商品を用意するのかもしれない。喜んでいただけるのはなん

姫路はバレーボールファンが多い地域として知られ、昨年、全国で初めてのプロ女子バレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」が誕生し、その支援もしている。

スポーツ以外でも地域を盛り上げるための活動には率先して参加しようというのが同社の精神。地元「ひめじお城まつり」を締めくくると総踊りには、85年の第1回開催から約2000人の社員が参加。「117」マークの浴衣姿で播磨段文音頭を踊って盛り上げる様子は、地元民の風物



上／50周年を記念して開催された絵画コンクールの審査員。
下右／参加者全員に賞状と缶バッジを贈呈した。
下左／入賞作品はパネルにして表彰式で展示され、現在も各地の感謝祭で披露している。



右／第7回3期のグランプリ作品「4世代でハイポーズ」
左／2カ月に1回開催されているフォトコンテスト審査風景。



週末のホームセンターやスーパーに相談会会場を設置。買い物のついでに気軽に気になっていたことを聞ける場となっている。

COMPANY PROFILE



株式会社 117

本 社 兵庫県姫路市古二階町63
設 立 1966年1月
資本金 1億2000万円
従業員数 2,088名
(正社員792名) グループ計

<http://www.117.co.jp/>

温かな記憶や愛情を 思い起こす時間をつくる

創立50周年記念として2015年に開催されたのは、「こども絵画コンクール」。「ありがとう」がいっ

詩になっている。
「やはりこだわりたいのは地域密着の姿勢です。特に葬儀に関しては、その方が住み慣れた地域で行われることがほとんどですから、葬儀場の選択肢は限られるもの。だからこそ、日頃から私たちの顔を見せて、安心していただける関係性づくりが重要なのです」。

「はい」というテーマに、1344点もの応募が集まった。「一番多かったのは、やはりお母さんの似顔絵。グローブ、靴、ランドセルといった日常使っている物を描いた絵も多かったですね。どの作品も、子どもたちが温かな記憶や愛情を味わいながら描いたものだと思えるもので、開催の意義を強く感じました」。

応募者全員に、賞状とそれぞれの絵を印刷した缶バッジを送付した。受け取った子どもの母親から「本人がとても喜んでいます」と電話が入り、経験豊かな審査員は「一般応募で一つひとつこんなに丁寧に作品を

扱う絵画コンクールは珍しい」と驚いていたという。また、7年前から年6期実施しているフォトコンテストも好評だ。テーマは「こころつないで」。テーマを通じて、写真を撮る人が人生を見つめるきっかけをつくりたいという思いが常にある。

出合いの場を提供する「縁活」のパーティーのほか、「冠婚葬祭なんでも相談会」など絶えず何かの企画がホームページで告知されているが、これらのイベントを扱う専門部署はないのだという。「何かできることはないだろうか？」から始まって、いい案が出たらやってみる。誰でも

「言い出しつべ」になれる雰囲気、同社にはもともとあるのだという。併せて、山下社長が尊重してきたのが「社員自身が楽しむ気持ち」だ。「真のホスピタリティとは、自分も含め、自分に関わる人を大切にできる気持ちから生まれるもの。相手に尽くす奉仕ではなく、『相手もうれしい、そして自分もうれしい』と思える体験を通じて、日々の仕事に対する社員の思い入れも強くなり、さらにお客様に喜んでいただけるサービスにもつながるはずです。私たちの仕事に一発逆転はなく、地道な取り組みが実を結ぶと信じています」。